

熊本平野の南端、浜戸川と支流が形成する塚原台地上に4～6世紀に営まれた古墳群で、方形周溝墓39基、円墳・小円墳34基、前方後円墳1基、石棺18基、石蓋土坑1基が発見されている(未調査のものを含めると全部で500基近くあるらしい)/九州自動車道建設工事の際に発見され、保存のため高速道路がすぐ真下を通過しており、塚原古墳公園として整備されている

TSUKAWARA OLD TOMB PARK INFORMATION BOARD

さらに県民天文台や大型遊具を設置した遊び場も設けられており、子供たちの学習の場として、家族の憩いの場として、古代をしのびながら御利用いただければ幸いです。



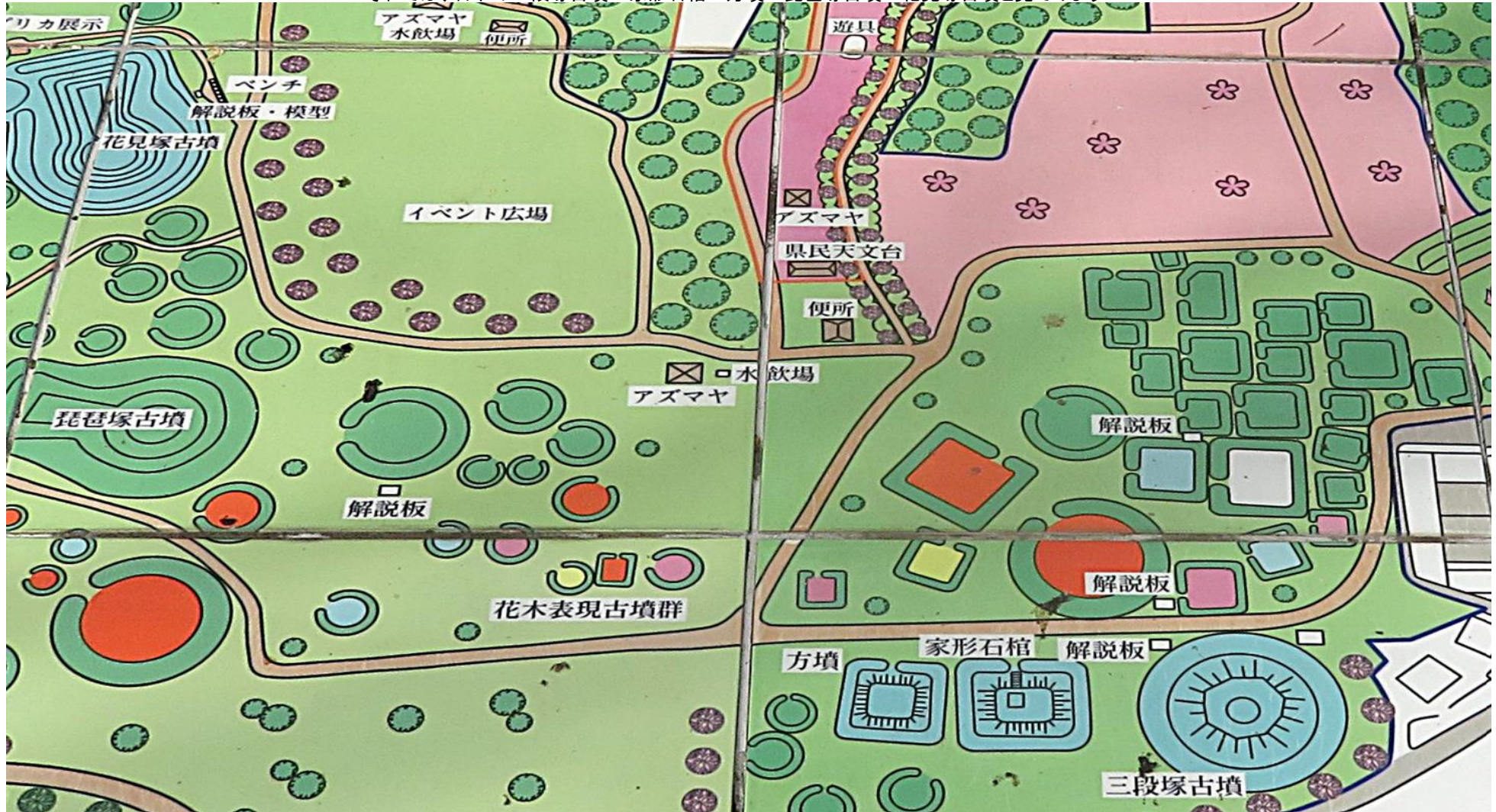
拡大図 ①



拡大図 ②



それでは、右下の三段塚古墳～家形石棺～方墳～琵琶塚古墳～花見塚古墳と見てみよう！



これが三段塚古墳/5世紀半ば築造の円墳

[video](#)



説明板

 [video](#)



主体部は横穴式石室らしい

さんだんづか

三段塚古墳

墳丘残存部（東西軸	21.5m	南北軸	20.2m
東西軸内径（調査結果	33.0m	復元径	33.4m
東西軸外径（調査結果	43.0m	復元径	44.5m
南北軸内径（調査結果	33.2m	復元径	33.4m
南北軸外径（調査結果	43.7m	復元径	44.5m

三段塚古墳は、その規模が琵琶塚・花見塚の両前方後円墳につぐ、塚原古墳群最大の円墳です。出土した土器から5世紀の中ばに築かれたと思われます。戦前は、その名のとおり墳丘上に3つの段が見られていたようですが、

戦争中に畑として利用されたこともあって、変形されてしまいました。ここに復元した古墳は、平成2年の調査結果を基にしたもので、右に描いたものがその復元図です。

内部に納められている棺の大きさや種類については、未発掘のためよくわかりません。ただ、古墳の規模や昭和62年に行われた地中探査レーダーによる調査結果から、隣接するくぬぎ塚古墳や丸山6号墳などと同じように、横穴式石室を採用していることが考えられます。

上 第3試掘溝の土器

下 第4試掘溝の土器

上 第6試掘溝の土器

下 第8試掘溝の土器

三段塚古墳周溝からみつかった土器

発掘前の三段塚古墳（昭和59年）

発掘時の三段塚古墳（平成2年11月）

三段塚古墳復元図

右手から見たところ

[video](#)



直ぐ近くに別の説明板があった



大 円 墳

方形周溝墓が最盛期を迎えた5世紀前半頃、くぬぎ塚古墳・三段塚古墳・丸山6号墳（將軍塚古墳）など、直径30mを超える大型の円墳が築られました。

これらの古墳は、方形周溝墓の規模をはるかに超えた周濠や

墳丘をもっており、墓域には板石や川原石を使って造った死体安置のための石室がもうけられました。

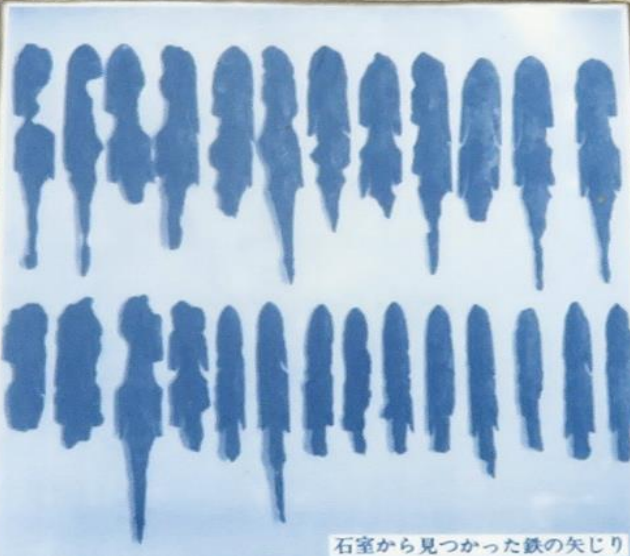
遺物は、石室内から鉄剣や刀・よろい・やじり、銅鏡、勾玉・管玉など、周濠内から壺・かめ高坏を主とする土師器がみつかっています。



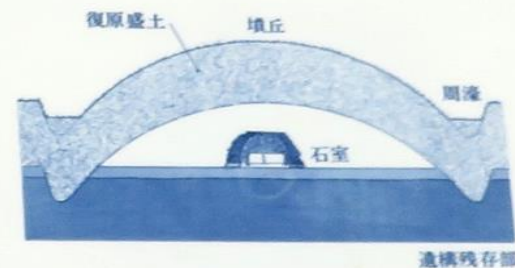
発掘された大円墳



大円墳構造図



石室から見つかった鉄の矢じり



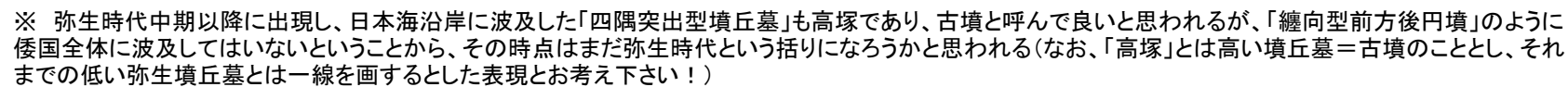
遺構残存部

大円墳復原断面図

この植栽表示されている部分は4世紀後半から5世紀中頃にかけて築かれた方形周溝墓群



下図は周溝墓から画期を経て、様々な古墳が築造されていくプロセスを図式化した試案/古墳時代にも周溝墓が築造されていた！



これは三段塚古墳の隣の家形石棺が出土した丸山2号墳/5世紀中頃築造の方墳



墳頂に覆屋が見える

 [video](#)



周濠の土橋を渡って墳頂に登る階段がある



そこで、左手を見たところ/左前方は三段塚古墳



同じく、右手を見たところ/右前方は丸山20号墳



墳頂に登るとガラスが嵌められた覆屋があった/前方は三段塚古墳

[video](#)



説明板/熊本県内で最大級の家形石棺が納められていたという



カラス窓の中を覗いて見たが、震んではっきり見えなかった



これが丸山2号墳の隣の丸山20号墳/5世紀後半から6世紀前半にかけて、方形周溝墓に替わって築かれた、中でも大きな円墳の一つ

[video](#)



右手から見たところ/周濠を渡る土橋がある



そこで、左手を見たところ/前方に丸山2号墳、その背後に三段塚古墳が見える

 [video](#)



同じく、右手を見たところ/小円墳群が見える



小円墳群/5世紀後半から6世紀前半にかけて、方形周溝墓に替わって築かれた



そのエリアに「国指定史跡 塚原古墳群」と刻まれた標柱が立っていた



これが琵琶塚古墳/5世紀末頃築造の前方後円墳/左手前が前方部、右奥は後円部

[video](#)



前方部の後ろから後円部方向を見たところ

[video](#)



こちらは花見塚古墳/6世紀末頃築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部/周濠が二重に巡っている

[video](#)



後円部の後ろの、二重の外の周濠



振り返って前方部方向に、二重の外の周濠を見たところ/右手に二重の内の周濠が巡っている



その先の二重の外の周濠で、後円部から前方部方向を見たところ

[video](#)



二重の内の周濠で、括れ部を見たところ/左手が前方部、右手は後円部



左手の前方部を見たところ



同じく、右手の後円部を見たところ/後円部は二段築成

[video](#)



墳頂に登って、括れ部で前方部を見たところ

[video](#)



振り返って後円部を見たところ



後円部墳頂で、前方部方向を見たところ/二重の周濠が見て取れる

 [video](#)



そこで、左手を見たところ/左前方に周濠を共有する円墳がある



同じく、右手を見たところ/こちらにも正面前方に周濠を共有する円墳が見える



さて、こちらは併設されている熊本市塚原歴史民俗資料館



周辺には様々な展示物があった





収穫を祝う



農夫の埴輪 群馬県オクマン山古墳出土(7世紀)



大きな髷の女性埴輪
熊本県牛塚古墳出土(6世紀)

古代の祭り

古くは樹木や岩を神霊のよりつく依り代と考えて、その前で祭りが行われていました。この石像群は、おおよそ1,500年ほど前、神木の前で舞いを奉納し、収穫を祝う祭りをを行っている場面です。

全体の雰囲気は、『年中行事絵巻』に見える里神楽や『古事記』のアメノウズメノミコトの舞いの記述などにもとずいて作り上げました。

「天宇受売命、天の香山の天の日影を手次(てしよ)に繋(つな)ぎ、天の真折(まを)を緩(ゆる)と為(な)て、笑(わら)の香山の小竹葉(こたけ)を手草(てぐさ)に結(むす)いて……」

(『古事記』から)



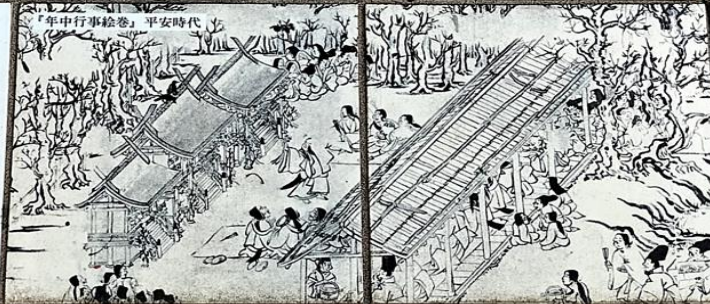
沖縄県久高島のイザイホー

舞う巫女(みこ)を軸に、横笛・太鼓・鼓で囃(はや)す囃子(はやし)、それらを見守る豪族・婦人・若者・長老、警護(けいご)の武人からなっています。

ただし、資料館前の展示なので、武器や武具を多くしました。

楽器は、神楽など日本の祭りで一般的な横笛と太鼓にしました。その形態や演奏法は、埴輪・古代の絵巻物・奄美の八月踊り・関東の三匹獅子舞などを参考にしました。

衣服・髪形・装身具・武器・馬具などは埴輪・古墳出土品・古墳の壁画・南西諸島や本土の祭り装束などにもとずいています。



古代では、鶏は時を告げたり、祭祀の為に飼養されていました。神様に馬を奉納することも古くから行われており、収穫後に山に帰る神様の乗り物とする地域もあります。鶏や馬は古い形質を残すものとして、熊本県指定の久連子鶏と鹿児島県指定のトカラ馬を参考にしました。



奄美大島八月踊りの太鼓



太鼓を打つ男性埴輪
群馬県境町出土(7~8世紀)



あごひげのある男性埴輪 千葉県砥塚古墳出土(7世紀)



正装した女性埴輪 群馬県伊勢崎市出土(7世紀)



短甲 復原模造



方頭大刀 群馬県藤岡町古墳出土



環頭大刀 静岡県船津古墳出土



挂甲 復原模造



騎馬人物像(高句麗・舞踊塚壁画)
くればこどり 久連子鶏



館内も宇城地方の考古資料が盛り沢山

 [video](#)



朝鮮半島の伽耶(加羅)産の赤色軟質土器/古墳時代中期/上の原遺跡



同じく、塚原古墳から出土した陶質土器高坏



